

第 3 回 館山市議会定例会会議録
(第 4 号)

1 昭和59年9月19日(水曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 26名

1番 神田 守隆	2番 田沢 勝信
3番 山中金治郎	4番 日下 君敏
5番 川名 正二	6番 生稻 陸
7番 榎本 春光	8番 小宮 利夫
9番 福原 勤	10番 横溝 功
11番 飯田 義男	12番 石井 謀
14番 伊藤幸太郎	15番 渡辺 昭夫
16番 松下 正己	17番 近藤 好雄
19番 黒川 平治	20番 石井 武敏
21番 吉田勇治郎	22番 林 豊
23番 伊賀 多朗	24番 流山源次郎
25番 五十嵐 昇	26番 石井 正
27番 安西 益男	28番 安澤 徳順

1 欠席議員 1名

13番 石井 昌治

1 出席説明員

第1号に同じ

1 出席事務局職員

第1号に同じ

1 議事日程(第4号)

昭和59年9月19日午前10時開議

認定第1号 昭和58年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第2号 昭和58年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第3号 昭和58年度館山市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第4号 昭和58年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決

- 算の認定について
- 日程第 1 } 認定第 5 号 昭和 58 年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について
- 認定第 6 号 昭和 58 年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について
- 認定第 7 号 昭和 58 年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について
- 認定第 8 号 昭和 58 年度館山市国民宿舎事業特別会計収支決算の認定について
- 日程第 2 請願第 5 号 少額貯蓄非課税の現行制度存続に関する意見書の提出を求める請願書
- 日程第 3 陳情第 2 号 福祉施設建設に関する安房郡市広域市町村圏事務組合へ意見書提出を求める陳情書

開 議 午前 10 時 01 分

○議長（石井 正君） 本日の出席議員数 26 名、これより第 3 回市議会议定例会第 4 日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○議長（石井 正君） 日程第 1、認定第 1 号乃至認定第 8 号昭和 58 年度一般会計及び各特別会計決算を一括して議題といたします。

質疑応答

○議長（石井 正君） これより質疑に入ります。

通告がありますので発言を許します。

20 番議員石井武敏君。御登壇願います。

（20 番議員石井武敏君登壇）

○20 番（石井武敏君） 昭和 58 年度の決算に関係をしまして御質問申し上げたいと思います。私の質問の要旨は、すでに当局の方に通告してございますので、その通告の要旨、また順序に従いまして御質問申し上げます。

す。

まず第1点は、47ページの議会費の議員報酬に関連をしましてお尋ねを申し上げます。この議会費に関しましては、常任委員会の委員長の職務を遂行するに際しまして、公的立場における対外的に出席をする場合も多々あるわけでございます。そうした中で、これらを考慮して議員報酬等において適当な方法で措置をすることは考えられないかどうか、この点御所見を承りたいというように考えます。

次に、55ページでございますが、企画費が載っておりますが、この企画費中の19節負担金補助及び交付金につきまして、ここには安房郡市広域市町村圏事務組合総務費負担金として載っておりますが、これに関連をしまして、広域圏組合の各事業が予定どおり予算を執行されましたかどうかという観点からお尋ねをしたいのでございますが、広域事務組合の事業は各款に分かれておりますので、組合事業に関する質問をここで一本にまとめてお尋ねしようとするものであります。決算で不用額を出している事業について御説明を賜りたいというように考えます。

次に、第3点目でございますが、56ページでございます。防災対策費中13節委託料に関するものであります。さきの長野県の西部地震は、私たちにとりましても心肝寒からしめるものがございました。また、われわれの身近なところから見ましても、伊豆沖合いから房総沖合いに至るまでの群発地震は「備えあれば憂いなし」という、そういうことをしみじみ考えさせるものでございますが、そうした考え方に立って今後の防災対策の推進や、充実を目指していただきたいというように考えるものであります。今回の決算におきましてはどのようにこれらに関しまして予算が執行されたかという観点から御質問を申し上げるものであります。

まず、56ページ13節委託料、ここには耐震性井戸付貯水装置設計監理委託料として、また15節には同装置の工事請負費に不用額が生じておりますが、その理由について説明を賜りたいというように考えます。

次に、59ページであります。11目コミュニティ施設費が載っております。これは昨年10月に御承知のようにコミュニティセンターは完成いたしました。コミュニティ施設は、いわゆる市民のために実際生活に即する教育、学術及び文化に関する諸事業を行っていく、そしてこれが市民の教

養の向上、健康の増進、情操の純化を図る、そうして生活の文化の振興を高めていこうということを目的としてつくられたものであります。また勤労青少年にとりましては福祉の増進や、健全な育成を図るためにも大いに活用を期待するものでありますが、これが完成後の活用状況についての説明を求めるものでございます。

次に、57ページの交通安全対策費についてでございますが、館山市内における交通事故の発生率を見ますと、昭和57年は252件、うち死亡即死3名、58年は件数は上がりまして321件、そして死亡が2名、今年度におきましてはすでに8月におきましては前年度をオーバーするほどの事故発生率が出ております。特に千葉県は、県としましては交通事故死亡率は全国的に見ても非常に多い地域であるというように指摘をされておるわけでございますが、こうしたことから、人命を交通災害から守るという施策に立脚しているのが、ここに示されておる交通安全対策費であろうと私は思うものでございます。

そこで、質問でございますが、この57ページの15節の工事請負費と原材料費についてでございますが、これは予算の執行に従いましてどのような整備がなされたのでしょうか、その辺を具体的にお答え願いたいというように思うものであります。

次に、75ページの20節扶助費の中に重度障害者等福祉手当が載っております。これはどのような額で、何名に給付をされているかを説明いただきたいというように私は思います。これらの福祉手当に関連しましては、私は施設に収容されている障害者と在宅の障害者では、福祉の受け方に大きな差があるというように考えております。そこで、もっと在宅の重度障害者に対して手厚い福祉が必要ではなかろうかというように考えておるものでありますが、そうした点を加味しましてお尋ねをするものでございます。本年度決算におきまして福祉手当につきまして御説明賜りたいと思います。

次に、124ページの11節需用費の中に修繕料が計上されております。722万4483円につきましてでございますが、これはどこを、どのように修繕なさったかを御説明をいただきたいというように考えます。

私は、各小中学校に洋式のトイレが必要であろうというように考えております。これは身体に障害のある生徒や、足にけがをした生徒等々もいる

ことと思われまし、また現在は生活様式も大変進んできておりまして、家庭生活の中での洋式化も進んできております。こうしたことから、生徒たちに便宜を図るためにも最低1校に1カ所の洋式トイレが必要ではなからうかというように考えておるものでありますが、こうしたことから逐次改善を願いたいと思うものでありますが、こうしたことを踏まえまして本年度で行った修繕の内容について説明を求めるものでございます。

それから、128ページの13節委託料についてでございます。この委託料の中で過脂肪児検診委託料、過脂肪児検診データ管理委託料について説明を賜りたい。この過脂肪児に関しましてでございますが、最近食生活の変化によりまして小学生の中に脂肪過多あるいは心臓病、成人病等々の児童がふえてきているのが現状であろうというふうに考えます。こうした児童の健康を守る施策が58年度におきましてどのように推進をされてきたかという観点をからめましてお尋ねするものでありますが、この決算に示されました委託料について説明をいただきたいというように考えます。

最後に、129ページの18節の備品購入費についてであります。これは不用類を生じておりますので説明を求めます。これに関しましては教材がどのように管理をされているかという点でお尋ねをしたいんですが、教材用品の中には、いわゆる劇物、毒物を含む薬品があると思いますが、これらの取り扱いが非常に簡単で、危険物的な感覚がない、薬品という重要性に対する認識を関係者は持っていないというように考えられます。学校教育に使用されているこの劇物を含むその他の薬品類が、たとえ少量とはいえ取り扱いに対する管理のための法の制定を受けていないようにも思いますが、それだけに慎重を期すべきものであるというように私は常々考えるものであります。当市において58年度これらに関しましてどのような管理をなさっているか、関連をしまして御質問を申し上げる次第でございます。

以上の点、御質問申し上げますが、市長の御答弁によりまして、また再質問をさせていただきたいというように考えます。よろしくお願いします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

常任委員長の報酬についての御質問でございますが、現在県内において支給されておりますのは28市中2市のみでございます。また全国的にも

常任委員長の報酬が定められている市は一部であり、当市においては現段階では考えておりません。

次に、55多安房郡市広域市町村圏事務組合に対する負担金につきましての御質問でございますが、各款ともそれぞれ予算どおり執行になっており不用額は生じておりません。

次に、広域圏組合の決算状況でございますが、火葬場費で89万8147円、霊柩車費で15万7748円、不燃物処理費で14万780円、消防費で120万8822円、予備費で4878万6980円それぞれ不用額を生じ、他の事業はおおむね予算どおりの執行となっております。

次に、56多の防災対策費についてでございますが、13節委託料の不用額43万7000円の内容の御質問でございますが、耐震性井戸付貯水装置設計監理委託料において委託契約残50万円、行政無線保守管理委託料の契約残1万2000円が生じ、さらに8節へ7500円を流用いたしましたものでございます。

次の15節工事請負費の不用額151万900円の理由でございますが、耐震性井戸付貯水装置設置工事の入札残でございます。

次に、57多交通安全対策費に関する御質問でございますが、15節の交通安全施設整備工事請負費につきましては道路反射鏡48基、防護柵304m、道路照明3基、道路標識2基、区画線630mの整備工事を行い、次の16節の交通安全施設整備用材料費については道路反射鏡——これは鏡面のみでございますが33面、反射鏡用アーム10本を購入し整備を行ったものでございます。

次に、59多コミュニティセンターの完成後の活用状況についての御質問でございますけれども、昨年11月開館いたしまして3月末までの5カ月間の開館日数は137日、利用件数678件、利用人員は1万4844人でございます。

次に、75多の扶助費重度障害者等福祉手当でございますが、この制度は居宅においておおむね6カ月以上常に臥床し、日常生活のほとんどに人手を必要とする65歳以上の寝たきり老人、20歳以上65歳未満の寝たきり身体障害者及び重度精神薄弱者またはその養護者に対し、その障害ゆえに生ずる負担を軽減するため重度障害者等福祉手当を支給し、福祉の増

進を図るものでございます。58年度の手当額は月額9250円でございます。まして、寝たきり老人27人に対し153万5500円、寝たきり身体障害者9人に対し85万1000円、重度精神薄弱者6人に対し66万6000円、合計42人に対し305万2500円を支給したものでございます。

次に、学校教育費の需用費中の修繕料についての御質問でございますが、まずその修繕内容の主なものといたしましては、各小学校の建具、プール、電気関係及び備品等の修繕でございます。

次に、各小学校に洋式トイレの設置をとということでございますが、最近建築いたしました小学校には取り付けをしております。しかしながら全校設置ではございませんので、未設置校につきましては学校側と実態を調査のうえ検討いたします。

次に、1253 過脂肪児検診委託料等についての御質問でございますが、過脂肪児検診については毎年小、中学校の児童、生徒が受けます定期健康審査の結果により、身長と体重の比率により過脂肪度を算出して、その数値が20%以上の者について血液検査、皮下肥厚の測定及び血圧測定を実施しております。この生化学的精密検査を過脂肪児検診と呼び、安房医師会病院に委託しております。58年度第2次検診の対象者は小学校児童347人——全体の6.3%でございます。中学校生徒は179人、6.9%でございます。なお検診委託料につきましては児童、生徒1人当たり2900円でございます。

次に、1293 学校教材用の薬品についての御質問でございますが、学習指導において使用される薬品、毒物、劇薬は、その管理、取り扱いによっては児童、生徒がやけど、薬害、中毒などの被害を受ける危険性がありますので、危険度の低い一般薬品とは別に危険な薬品は完全に施錠のできる薬品庫に保管し、その出し入れについて教師が直接行っております。法的には薬事法、毒物及び劇物取締法等により位置づけられておりますので、比較的少量とは言え、その管理については格別な配慮をいたし、これら薬品類が保管されております戸棚の地震対策として小、中学校に対し転倒防止工事を施行し、万全を期しております。

以上、答弁を終わります。

○ 20 番（石井武敏君） ただいまの市長の御答弁でおおむねの了解をいたしますが、なお 2、3 もう少し細部にわたりまして、この際明らかにしておきたいことがございますので御質問を申し上げます。

まず、広域事務組合の事業についての質問でありますけれども、広域事務組合の決算におきますと、全体の不用額が相当に出ているように私は考えます。これを館山市の一般会計と比較しますと、館山市の一般会計が 102 億の予算のうちに 9500 万でございますが、いわゆる広域組合の決算では 11 億 9000 万の予算の中に 5200 万が不用額として出てきておるわけでございます。この不用額の主なものを見ますと、先ほど御答弁がありましたように予備費が非常に多いわけでございます。4800 万が予備費ということでございます。この予備費の枠組みが非常に大きいと私は思うのでございますが、この枠組みの考え方、適正かどうかという見解について示していただきたいというように考えます。

それから、各市町村の負担割合についてでございますが、これはいろいろと私は検討を要する点が非常に多いと思うんです。たとえば、負担割合の中で夜間待機施設及び休日当番医制の確保に関します事業はどういう割合かと言いますと、均等割りが 10%、人口割りが 40%、それから実際救急搬送した実績を踏まえたものが 50% という負担割合になっております。また夜間の急病診療所の確保の事業は均等割りが 20%、診療件数割りが 80%、これも実績を踏まえております。火葬場及び葬祭用具運営費は人口割りが 50%、やはり実績を踏まえまして火葬体数割り 50% おのおの実績を踏まえまして負担割合が出ておりますが、しかしこの中で、霊柩車とか、祭壇等の整備事業これは実績があろうと思いますが、そうしたことは全然加味されずに、構わず人口割り 100% となっております。こういう点で、私は実際の使用数を含めた負担割合にした方が望ましいというように考えております。しかし、今回は私はこういう意見だということにしまして、質問としてはそれ以上御質問は申し上げません。

それから、質問としましては、これから行おうとする粗大ごみの処理事業の運営費としての負担割合はどのように考えておられるのか、これからやる事業でございますので、基本的な線を明らかにできればいただきたい、検討中であれば検討中でも結構でございます。この負担割合という

ことは真剣に取り組んで、館山市民の民意を反映したものでなければいけないじゃないか、そういうように私は基本的に考えておりますので御質問するわけでございます。

それから、特別養護老人ホームの運営費としての負担割合はどうなっておりますか、あわせて御質問いたします。

次に、防災関係でございますが、非常に最近、私たちの身近に起こってきておりまして、非常に緊張する場面も出るわけでございますので、これが対策方は非常に重要であろうというように考えます。この中で、いわゆる自主防災組織がすでにでき上がってきている時期ではないかというように私は考えます。かねてからかなり多くの数私は通告質問の中で防災問題を随所に取り上げてまいりましたが、その答弁の中から推察しますと、すでに自主防災組織もでき上がってきていい頃ではないかというように私は考えますので、いまこの点につきましてはどういう形で仕組みができ上がってきているか、関連をしてお答えを願いたいというように考えます。

それから、次の交通安全対策についてであります。道路照明が今年度3基ということは、非常に道路照明の設置数が少ないんじゃないかというように私は考えるわけでございます。この点の説明を加えてください。

それから、かつて私が本会議で御要望申し上げましたカーブミラーのナンバー表示制度、これは現在進んでいるんでしょうか、その点もあわせてこの際お尋ねをしておきます。お答えいただきたいと思います。

次に、コミュニティセンターでございますが、これは御答弁によりますと利用件数678、延べ利用数1万4844名ということでございますが、これは利用状況から見まして、当初予定されました目標に対しては目標を突破しているんでしょうか、目標に対してどうなんでしょうか、もし目標より少なければ少ないなりの対策がすぐ必要ではないかと考えるものであります。その辺はどうでしょうか。

それから、実際に1万人からの人たちが利用しているのでありますから、こうした点はこういうふうに直した方がいいんじゃないか、ここはこうしてもらいたいというような要望や希望もあろうかと思いますが、利用者からそうした要望、アンケートを取ってみたらどうであろうかと私は考えますが、その点もあわせてお答え願いたいというように考える次第でござい

ます。

次に、重度障害者に対しましては、御説明では寝たきり老人あるいは重度精薄者またはそれらを養護する者に対して措置される手当であるというように御答弁がありました。寝たきり老人に対しまして現在ホームヘルパー制度が実施されておるわけでございますが——これがいわゆる有料の家庭奉仕員でございます。この制度の状況をあわせて説明願いたいと思います。これは需要と供給の関係でバランスがとれているのでしょうか、お願いします。

それからもう1点、これもかつて本会議でいろいろ要望が出た問題でございますが、寝たきり老人の独り暮らしの老人に対しまして、いざ火災の場合に大きな火災になるので消火器を設置したらどうか、こういうような意見が出たと思います。消火器の設置に関しましては現在どういふようになっておりますか、設置するようになっておりますか、なっているとすればどういふような消火器が設置をされようとしているのでしょうか、御質問します。

次に、洋式トイレについてでございますが、これは最近建築をされました学校は洋式トイレを組み入れているという御答弁でございまして、またこれから設置をする学校も学校側と、いわゆる実地調査をしてもらって、その上で検討したいというように市長から御答弁がございました。現在設置されない学校名はどことどこなんでしょうか、小学校と中学校含めてひとつお答え願いたいと思います。ぜひ進めていただきたいというように御要望するものでございます。

次に、過脂肪児につきましてでございますが、ただいまの御答弁でおおむね了解をしましたが、要するにこうした児童に対しての解決策というものは、私は食生活と運動しかなかろうかと思います。その辺の食生活と運動に対する指導というものをどういふように具体的に行っておりますか、行っているものがあったら答えていただきたい。そういうことに関して行っていないかいないかでお答えは結構でございます。

最後に、学校で使う薬品の処置についてでございますが、御答弁によりますと、かぎのかかるところで管理をしているということ、そして先生がこれを取り扱っているということ、地震対策としては転倒しないようにし

ているということ、そういう配慮をしているということでありました。

これらの薬品に関しましては、私は少量とは言え劇物でございますので、薬品ごとの品目別の台帳を備えておく必要があるというように思いますが、これはどう思いますか。現在そういう台帳はきちんと——どこがどの程度劇薬が残っているというような台帳がいますか、おそらくまだないと私は思っているんです。これを整備してもらいたいと思っているんです。たとえば、薬品の購入月日とか、使用年月日とか、また残量がどのぐらいということは明確にしておくべきであると、特に青少年犯罪も非常にふえておる昨今でございますので、いろいろなそういった情勢も踏まえながら御質問しているんですが、この辺の整備をもう少しきちんとしてもらいたいというように私は考えるんですが、御答弁を賜りたいというように考えます。

以上が、再質問でございます。

○市長公室長（斎藤武男君） 55頁19節負担金補助及び交付金の関係につきましてお答え申し上げたいと思います。

予備費の金額を総予算の何%にするかにつきましては、格段根拠はございませんで、一概には言えませんが、おおむね1%から5%ぐらいが適当であると言われており、各団体の状況等から判断すべきであると考えております。

広域事務組合の58年度の予備費につきましては、当初予算では454万9000円で、予算規模の0.38%になっておりますが、当初予算におきます58年度の給与改定率を4.5%と見込んで予算化をしましたところ、実際の改定率が2.07%と低くなりました関係から、補正予算で人件費を軽減いたしまして予備費に組み替えをした関係並びに歳入における繰越金の預金利子等の増加に伴い、その増加分を歳出予算の予備費に計上したために、最終的には予備費が4878万6000円となり、予算規模の3.9%と多くなったものでございます。

次に、粗大ごみ処理事業の運営費の負担割合でございますけれども、来年度予算編成までに関係市町村で検討をしていくということになっております。

また、特別養護老人ホームの運営費の負担割合でございますが、現在各

市町村が負担しておりますのは、社会福祉法人館山老人ホームが特別養護老人ホームを建設した際の用地取得並びに建設費についての借入金に対する補助金を負担しておるものでございまして、その運営費については負担しておりません。

○民生部長（鈴木 力君） 防災対策の自主防災組織の結成状況でございますが、現在各地区、各町内会単位におきまして63組織が結成されておきまして、世帯にいたしますと1万1450世帯でございまして、全市結成率は61.7%になるわけでございます。なお、今後におきましても防災懇談会を通しまして、この自主防災組織の結成につきましても醸成を図っていききたいというふうに考えております。

それから、交通安全施設の58年度の整備状況の中で、道路照明3基は少ないではないかというお尋ねでございますが、現在整備しております道路照明につきましてもは局部照明でございまして、信号機の設置された交差点、それから横断歩道、長い橋梁の箇所、夜間交通上特に危険な場所に設置を進めておるところでございまして、今年度設置予定の3基を含めまして主要道路への設置はほぼ5カ年計画に沿って整備をしておるわけでございます。国道あるいは県道に比較いたしますと、市道におきましての整備はかなり整備されておるというふうに思っておるわけでございます。

それから、カーブミラーにナンバー表示の実施という問題があったわけでございますが、すでに今年度設置いたします分につきましては、番号表示を実施いたすことにいたしております。なお、58年度以前設置分につきましては今後計画的に実施する考えでございまして。

それから、寝たきり老人に対する家庭率仕員の派遣の状況ということでございますが、お尋ねの場合におきましては有料家庭率仕員の派遣状況でございますが、59年9月1日現在でございますが、有料ホームヘルパーといたしまして身障者家庭1世帯に対しまして派遣いたしております。それから老人家庭におきましては有料ホームヘルパーは9世帯に対しまして派遣をいたしておる状況でございます。

それから、需要と供給というお尋ねでありますけれども、これにつきましては必要な、寝たきりあるいは身障の方たちが家庭率仕員を派遣する必要があるという家庭に対しましては、それに対応した家庭率仕員を充実さ

せまして実施しておるという段階でございます。

それからなお、寝たきり老人家庭等の自動消火器の設置について現在どのように対応しているかということでございますが、これにつきましては昨年の10月に日常生活用具の貸与要綱を改正いたしまして、寝たきり老人、それから独り暮らし家庭に対しまして、この自動消火器というものを給付するということでございますが、現在までに寝たきり老人あるいは独り暮らし世帯に対しましてまだ自動消火器というものは給付いたしておりません。ちなみに、老人実態調査をいたしましたんですが、その結果によりますと、かなり希望する方もあるようでございますので、現在これら必要な世帯に対しましての調査をいたしておるところであります。

それから、消火器の装置につきましてでございますが、これにつきましては特に重度身体障害者あるいは独り暮らし家庭向けの自動消火器というものが現在いろいろ検討されまして、市販されておるわけでございます。これは家庭の台所とか、居間等における火災に対しまして、異常温度に対して、あるいは煙に対して自動的にセンサーが感知いたしまして、同時に消火剤というものが噴射されるということで、初期消火を行う装置が自動的にできるような仕組みになっておるわけでございます。

○教育長（安田豊作君） まず、コミュニティセンターの利用状況は目標に対してどうかということ——目標ということについて疑問もありますけれども、当初コミュニティセンターを建てるに際して、このくらいの利用人数を考えていますということで防衛庁の補助申請をした——仮にその人数を目標といたしますと、58年度はさっき市長からお答えしました数でやや劣っております、スタートですから。しかし、本年度4月から8月までの数は2万7311人、月にしまして5462人、当初目標として防衛庁に申請しました数は年間6万2000で、月平均5166人、後これから先の使用を考えると、それをはるかに上回るんじゃないかという予想がされます。

それから、利用者の要望については大々的なアンケートはとっておりません。これからそうしたアンケートをとって運営に反映させるようにしていきたいと、こう思っております。

それから、洋式トイレの設置してない学校はということでございますが、

52年に建設されました富崎小学校、それから神余小学校は昔のままです
から、それと47年に建設されました豊房小学校、44年の北条小学校と
4校でございます。それから中学校につきましては3中1校でございます。

過脂肪児についての食事指導、運動指導についてということでございま
すが、先ほど市長から申し上げましたのは検査でございます。その検査の
結果、脂肪度の非常に高い生徒については定期的に専門医の面接指導を行
っております。これは主として生活指導になりますから食事指導と運動、
なお集中的には夏休みにサマーキャンプを行いました、2泊3日、そのと
きの反省事項にもありますが、糖分を含む食品は制限した方がいいとか、
蛋白質は適当にとった方がいいとか、脂肪を含む食品も多くとってはいい
ない、ビタミンやミネラルを含む食品を多くとるのがいいんだと、おやつ
は過脂肪の最大の原因になるおそれがあるので気をつけなければいけない
とか、食事の上ではそうしたことをポイントに具体的に指導しております。

それから、運動については過脂肪についての個人差が非常に大きいので、
まず体力診断をし、その子供に合った運動を、こういう運動がいいんだと
いう個別指導をしております。

お話ししましたように、過脂肪に該当した子供については非常にきめ細か
な指導がされておりますが、一般の子供に対してはこうしたことを参考に
さらに普及していく必要があるんじゃないかということを考えております。

薬品の管理についてでございますが、市内の小、中学校に薬品特に劇物、
毒物の管理、指導についてという指導書をつくりました。そして、台帳云
々というお話もありましたが、学校保健法の中に、こうした薬品の管理に
ついては薬剤師の職務内容になっております。したがって「学校において
使用する医薬品、劇物、毒物並びに保健管理に必要な用具及び材料の管理
に関し必要な指導と助言を行い」云々というのが薬剤師の仕事でございま
すので、薬剤師の指導を受けながら遺漏のないような管理をさせるように
していきたいと思っております。

○20番（石井武敏君） 教材費の薬品についてですけれども、結局薬品
というよりも教材費というとならえ方が観念的にも、实际的にも多く働いて
いるんじゃないかと思うんです。いまの御答弁でいきますと、どういう薬
品が、どのぐらい残ったという台帳が整備されてないようでございます。

ぜひ整備する必要があると私は思うんです。扱い方に関しては薬剤師からいろいろ指導も受けていると思います。こういうふうに扱わなければあぶないという、しかし実際の管理というのは、薬剤師はそこまで管理のめんどろをみるというわけには実際にいかないわけで、各学校がきちっと管理をしなくちゃいけない、そのためにはきちっとした台帳を整備して、何の種類がどのぐらい残っているかということをしちっとしておかないと、なくなった場合にわからないんじゃないか、減った場合もわからないんじゃないかと思うんです。一応かぎがかかっているとは言え、どういう事態になるかもしれない、ぜひやっていただきたいと思うんですよ。大体保管場所を見ますと、ガラスの戸棚とか、どういう劇薬が並んでいるか、劇薬の名前を書いたシールを張ったものが表から見えるところにほとんど置いてある、その方が取り扱いやすいから、取り出しやすいから見えるところに置くんです。やはりその辺の管理を含めてぜひ検討してもらいたいというふうに考えます。御要望いたします。

それから、過脂肪の児童につきましては定期的に面接指導をしている、集中的にはサマーキャンプを行っているという教育長の御答弁で了承いたします。

トイレにつきましては、いまの御答弁でいきますと、小学校が4校、中学校が1校洋式トイレがないわけでございますが、結局新しく建設されるところには洋式トイレを取り入れたということは、これは要望を聞いたり、検討するまでもなく、そうしたものが実際に生徒が必要であるという前提で、新しいものには必ずそういうものをつけていくということであると私は思うんです。ですから、これはぜひ早い機会に中学校1校と小学校4校、これらの学校に洋式トイレを取り入れていただくようにここで要望申し上げます。よろしくお願いします。

次に、福祉の問題でございますが、民生部長からお答え願ったんですが、独り暮らしの老人に対する自動消火器の設置、これは現在設置をしていないという御答弁でした。しかし要望があるように思います。ですから、要望に応じて設置をぜひともお願いしたいと思うんです。現在非常に地震の心配もありますし、地震の2次災害としては火災でございますので、ぜひこれは要望に応じて早速実施をしていただきたい。お願いいたします。

それと、防災の関係でございますが、先ほど御答弁をいただいたんですが、自主防災組織は63組織1万1450名というように組織ができ上がったようにいま御答弁いただきました。いよいよ組織ができ上がったときには、具体的にはどういう活動をするかという段階に入ってくるのではないかと思います。そこで、わが自主防災組織においてはこうしたいという意見がおのおの出てるのではないか、その中にはわが自主防災組織もまず防災用具をそろえたい、その次は防災用具がそろったときには、それを備蓄する倉庫がほしい等々だんだん補助金を必要とするものがふえてくると私は思います。

そこで、御質問するんですが、館山市も自主防災組織を整備する整備事業補助金交付要綱をつくる必要があると私は思います。これを検討していただきたい思います。この点に関しては御答弁をいただきたいと思います。

それから、広域事務組合の事業に関しましての質問は、その負担割合につきましては私はもう一度洗い直して見直す必要があるというように考えます。いわゆる館山市民の民意を反映したものがほしいと考えます。そこで、質疑としましては新年度の60年度予算の中で改めてまた質疑をしてまいりたいと思いますので、今回は質疑としては打ち切ります。

また、コミュニティセンターにつきましては、先ほどの教育長の御答弁で了承いたします。

残った答弁ひとつお願いします。

○民生部長（鈴木 力君） 自主防災組織に対する補助金でございますけれども、現在自主防災組織に対しまして、補助金といたしましては館山市のコミュニティ事業補助金交付要綱、この中で自主防災組織の備品整備に要するものに対しまして補助対象として規定をし、運用しているところでございます。今後これに対する補助金交付要綱を設置しろという御趣旨でございましたが、これにつきましては今後の検討課題として考えさせていただきます。

○20番（石井武敏君） 質問を終わります。

○議長（石井 正君） 以上で、20番議員君の質疑を終わります。

次、1番議員神田守隆君。御登壇願います。

（1番議員神田守隆君登壇）

○ 1 番（神田守隆君） 昭和 5 8 年度館山市一般会計の決算、国民健康保険会計決算及び財産に関する調書についてお尋ねいたします。

一般会計の決算についてであります。5 点にわたってお尋ねをいたします。

事項別明細書 1 5 頁の固定資産税についてでございます。固定資産税は収入がない方に対してもかけられる税金でございますから、支払い能力がないにもかかわらず課税されるということで、なかなかその重税感は大変なものがあるかと思ひます。

収入未済額は 1 億 2 5 0 4 万 1 0 0 0 円、大変に多い額だと言わなければなりません。内訳は現年分で 5 5 4 9 万 2 0 0 0 円、過年度の分で 6 9 5 4 万 8 0 0 0 円となっております。調定額に対してこれらの収入未済は 9 . 3 7 % にもなっているわけでありまゝ。個人市民税はこれに対して 2 . 0 6 % でございますから、固定資産税の収入未済の多さは大変多いと思ひわけでありまゝ。

市長は、この収入未済の原因について、貧困に起因するものなどいろいろその原因はあろうかと思ひますが、どのように分析をされておるのか、お聞かせを願ひたいと思ひます。貧困による場合、減免等の処置がうたつてありますが、これは市が減免処置をした場合、国との関係で財政上はどのようなになるのか、お聞かせを願ひたいと思ひます。

2 0 頁、地方交付税が前年度に比べますと大幅に減少しております。5 7 年度の決算の数字で見ますと 1 7 億 3 5 3 7 万 9 0 0 0 円、これに対して 5 8 年度では 1 4 億 9 1 8 1 万 4 0 0 0 円、2 億 4 3 5 6 万 5 0 0 0 円という大変に大幅な減少で、前年度比で見ましても 8 5 . 9 6 % と 1 6 % も落ち込んでいるわけでございます。地財計画上地方交付税総額は 4 . 9 % 減と圧縮をされたとありますが、それにしてもこんなに落ち込んでいるのはなぜなのか、監査委員の審査意見書によりますと、基準財政収入額が伸びたためとされているわけでありまゝ、こゝらの事情についてもう少し御説明をお願いしたいと思ひわけでありまゝ。

次に、9 2 頁であります。水道費ということで御質問をいたします。決算に係る主要な施策の成果に関する報告の 2 9 頁乃至 3 0 頁によりますと、館山の市営水道、三芳水道にそれぞれ支出をしているわけございま

す。そうしてその中で、その業務内容について簡潔に記されております。本年6月には水不足を来し給水制限がされるなど、改めて館山市の水事情の困難性や問題性を感じたところでございます。

そこで、当市の水事情について58年度決算の中から、その姿を明らかにしていただきたいと思うのでございます。最近の水使用量の動向についてはどうですか、給水の総水量及び1人当たりの給水量について御説明を賜りたいと思うわけであります。また、今後水資源の有効な活用を図るためにはどのような方策が考えられておるのか、お聞かせを願いたいと思うわけであります。

次に87頁、予防費という中で委託料、結核検診あるいはがん検診の委託料ということで決算の数字が出されておりますが、これも主要な施策の成果に関する報告の24頁乃至25頁を読みますと、かなりの成果を上げていることがうかがわれるわけであります。

がん検診におきましても、胃がん、子宮がん、乳がん日本人のがんの主要な内容が検診の対象になっておるわけであります。肺がんにつきましてもエックス線検診のフィルムの二重読影で肺がんの検診に役立てているとのことであります。しかしながら、若干問題を感じるのは、肺がんというがんについては肺野型と、あるいは太い気管支にできる肺門型と言われる2種類のタイプがあるというふうに聞いております。肺野型の場合はエックス線写真に写るそうでありますが、肺門型の場合には心臓の陰に隠れて早期のものはわからないそうでございます。ところが、たんの細胞検査をすると、これがわかる、肺がんをなくす会というふうな会があるそうでございますが、ここでは肺がんになる危険が高いと言われるような方、40歳以上でたばこを1日20本以上吸うとか、20年間吸い続けているとか、あるいは血たんやせきなどの症状があるとか、家族にがんになった者がおるだとか、こういう大変に肺がんの危険度の高い方々、高危険度群の方々に対しては、一般受診者の中から特にたんの検査を実施することが必要ではないか、これが実施されれば——エックス線による二重読影だけでは、現在の状況は肺がん対策としては大変に片手落ちだと思うわけですが、それに対しても万全の対策がとれるのではなからうかと思うわけで、この辺についてのお考えをお聞かせ願いたいと思うわけであります。

次に、8ページの歳入差し引きの残高でございます。3億3665万3638円、これが58年度におきます決算の剰余金でございますが、どのように今後使っていくお考えなのか、積み立てを予定しているのかどうか、この辺についてのお考えをお聞かせください。

次に149ページ、国保会計に移ります。国保税の収入未済額が1億8473万4000円、この国保税の徴収率は82.27%、収入未済を昨年と比較して見ますと、徴収率の面で2.65%落ち込んでおります。この未済額の動向はどのようになっていますか。低所得層の人が比較的多いのが国保でございますから、貧困など未納の理由ではないかと危惧をするわけであります。未納の理由はということだと考えておりますか。また、館山市の国保税は高いといううわさもでございます。国保税の水準は県内他市と比較して高い方ではないかと思うわけで、1世帯当たりの国保税では28市中現在何番目になるか、お聞かせをください。

次に213ページ、財産に関する調書でございますが、普通財産の土地が本年度中1万3379.57平米ほどふえたようでございます。その結果5万3360.22平米となっております。普通財産でありますから、この内訳はどのようなものなのか、御説明を願いたいと思うわけであります。

次に215ページ、財政調整基金についてでございますが、年度末の残で10億5594万6000円ということになっております。積み立ての目的について3月議会で御質疑をしたわけでありましたが、市長さんは積み立ての目的について「私にまかせてくれ」と、明確な御答弁がいただけなかったわけで、半年を過ぎた現在において、この積み立ての目的についてどのような考え方を持っているのか、お聞かせを願いたいと思うわけであります。

216ページの土地開発基金についてでございます。土地が3693.97平米ふえて4498.97平米となっておりますが、これはどのようなものがふえましたか、また債券が1億4340万3000円ふえて1億4810万3000円となっています。この内訳は何なのか、お聞かせを願いたいと思うわけであります。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長（半澤良一君） 神田議員の御質問にお答えいたします。

まず第1点、固定資産税の収入未済の内訳、その理由についてということでございますが、本市におきましては固定資産税、都市計画税合わせて納付でございますので、両税合わせたものについてお答えいたします。

58年度固都税収入未済額は、現年課税分6956万6720円、滞納繰り越し分8706万4119円、計1億5663万839円でございます。納入未済額の分析でございますが、100万円以上の滞納者42人8015万円全体の51%、50万円以上100万円未満の滞納者79人約2020万円13%、50万円未満の滞納者858人約5627万円36%でございます。

固都税未済の理由といたしましては、市民税のような特別徴収の制度がないこと、所得者の所得に関係なく徴収されること、特に市外居住者の納税状況がよくないこと等が挙げられることと思いますが、そのほか他の税目にも言えることでございますが、景気低迷によりとりあえず営業資金または生活費に充てられ、納税はその後というのが一般的な実態でございます。

なお、減免をいたした場合、国との関係は特にございません。

次に、地方交付税の減少についての御質問でございますが、予算編成時におきまして国税三税の減少から57年度の交付税を下回る予想はしたのでございますが、普通交付税につきましては8月算定の結果、基準財政収入額におきまして前年度に比較して市税等の伸びにより1億3648万円5%の増となり、基準財政需要額におきましては交付税総額の減少に伴う補正係数及び単位費用の変更等により、前年度に比較して9909万円2.3%の減となりました。なお、特別交付税につきましては前年度に比較して262万円1.5%の減少でございます。

次に、水道費について水使用量の動向、水資源の活用についての御質問でございますが、最近5カ年間の給水実績を見ますと、年間給水量では市水道が年平均伸び率3.7%で58年度317万5000ℓ、三芳水道は年平均伸び率5.8%で58年度142万9000ℓ余となっております。

また、1人1日当たり平均使用水量につきましては、市水道で年平均7ℓの伸びで58年度224ℓ、三芳水道が年平均8.4ℓの伸びで58年

度197%となっております。使用水量は水洗化等により年々増大することが予測されます。

水資源の確保については種々検討しているところでございますが、当面既存水資源の有効活用が大変重要なことでございます。本市は観光の入り込み等で特に夏季使用量が増大し、水事情が逼迫する現状にございますので、有収率の向上による効率化に努めるとともに、節水の呼び掛け、自家井戸の活用、ふろ水の洗たく水への利用等今後ともPRを行い、水の有効利用を進めてまいりたいと考えております。

次に、結核、がん検診事業に関連して、肺がん対策にたんの検査を取り入れたらどうかという御質問でございますが、肺がん対策につきましては現在結核検診の際撮影した胸部エックス線フィルムを使用いたしまして肺がんの検査を実施しており——いわゆる二重読影でございますが、当市では現在喀たんの検査は実施しておりませんが、県では二重読影と喀たん検査を実施できる要綱を検討中であるように聞いております。お説のように高発生群を対象とした検診も考えられますが、今後県の方針等も考慮して検討してまいりたいと考えております。

次に、決算剰余金についてどのように考えているかという御質問でございますが、58年度の決算剰余金は実質収支におきまして3億3450万3000円でございますが、このうち7289万7000円をすでに予算化し、今議会の補正予算財源として1億1796万6000円をお願いしてございます。したがって、残高といたしましては1億4364万円となりますが、これの処分につきましては現下の厳しい財政状況から今後の補正財源として留保いたしたいと考えております。

次に、国保税の収入未済額についての動向、理由についての御質問でございますが、58年度国保税収入未済額は現年課税分6615万6870円、滞納繰り越し分1億1857万7132円、計1億8473万4002円でございます。収入未済額の分析でございますが、30万円以上の滞納者132人約6181万円全体の33%でございます。30万円未満の滞納者2055人約1億2292万円67%でございます。

国保税における滞納状況を見えますと、少額滞納者による滞納額の占める割合が多いのが特徴でございます。理由としては被保険者の中に罹病

率の高い老人層が多いため、比較的税が高い、担税力の弱い世帯が多い、景気低迷のため可処分所得の伸びがない、さらに相互扶助の理解が得られない方がいる等が原因ではないかと思われます。

なお、国保税の県内における順位でございますが、58年度は10番目、59年度は7番目でございます。

次に、財産に関する調書についての御質問でございますが、まず第1点普通財産土地はどういうものかということでございますが、普通財産のうち土地の決算年度中増減高の内訳の主なものでございますが、衛生センターの建設に伴い旧藤原処理場の用途廃止に伴う行政財産から普通財産に用途がえしたものの1万194㎡、館山市環境保全公社に使用させるための土地用途がえ分3010㎡でございます。その他の主な土地といたしましては貸し付け土地58件1万3608㎡、公共事業先行取得用地として旧国鉄本館山駅跡地2809㎡でございます。

次に、財政調整基金についての御質問でございますが、御承知のように財政調整基金は、現在の地方財政制度の中で予算の単年度主義の補完的な役割として年度間の財政調整機能を有しております。したがって、各年度の歳入規模との関連もでございますが、その活用につきましては館山駅西口地区土地区画整理事業を初め今後の大規模事業や、災害等を含む緊急を要する経費の財源として積み立てているものでございます。

次に、土地開発基金について、土地と債券の内訳は何かという御質問でございますが、まず土地の現在高4498.97㎡の内訳でございますが、コミュニティ施設用地3343㎡、国道127号館山バイパス関係用地1155.97㎡でございます。債券につきましては館山市開発公社に委託いたしました用地取得事業に係る経費として貸し付け運用しているものでございます。

以上、答弁を終わります。

○1番（神田守隆君） 地方交付税の減について、基準財政収入額が5%伸びたというお話でございましたけれども、たとえば新たな工場ができて固定資産税等が入るようになったとか、そういう特別な事例があるわけじゃないんですね、特にそういうことがなくて基準財政収入額が5%も伸びたというのは、一般の市民の市税等の伸びがそれだけあったというふうな

ことで解釈せざるを得ないんですが、基準財政収入額が伸びたということは、市の財政がそれだけ豊かになってきて、非常に財政的に余裕ができてきたから地方交付税が削られたという解釈になろうかと思うんですが、実際はとてもそんなもんじゃないんじゃないかと思うんです。政策的な、意図的な内容ももちろんあろうかと思うんですが、そういうことで館山市の落ち込んだ理由——全体の地財計画との比較で見ますと、特に館山が大きいわけですから、その辺についてはもう少し突っ込んだ説明がいただきたいと思うんです。地財計画全体では4.9%ですか、ところが館山市は14.1%というような落ち込み方ですから、そこらのことをもう少し具体的に——全く実感とはずれているわけですから、お聞かせ願いたいと思うわけです。

それから、水の問題ですが、非常に館山は水が少ないということで節水型の社会といいますか、水をできる限り効果的に利用していくというようなことを館山市は積極的に考えていかなければならぬだろうと思うんです。

そういうことから、どういようなことが考えられるかということ、先ほどお話がございましたが、分析の数字でも全体として伸びているという中で、1人当たりの消費量が伸びているということがうかがわれると思うんです。

そういうことから、この水不足の中で、学校等で節水のこまを使ってやられたという事実がございますね、節水こまというのは実際効果としてはどういものなのか、一般家庭の中でそれを普及していくという点ではどういふような効果が考えられるのか。その辺についてお考えがあったら、お聞かせ願いたいと思うんです。

それから、先ほどの中に井戸水の利用といういようなお話もございましたけれども、学校だとか、あるいは市だとかそういう公共施設等の井戸の設置状況という点からは現在どうなっておるのか、そういう点についてさらに今後考える必要はないのかどうか、お聞かせを願いたいと思うんです。

結核、がん検診については、県の要綱とあわせて検討中ということですから、ぜひとも早い時期にそうしたものがやられて、一人でも多くの方の命が救われるような施策をぜひともお願いしたいと思います。

国保会計であります、館山市は28市の中でも安い方じゃないという

数字がいま出されたわけで、そういう中で収入未済もかなりのものになっているわけで、しかもその内容がやはりいまの景気低迷だとか、あるいは収入の状態だとか、そういう中で比較的低所得者といったらいいと思うんですが、そういう方の中の困難な姿が大変この収入未済の数字の中にあらわれているなど、先ほどの御説明で理解をいたしました。

そういう中で、国保税条例を見てみますと、法定減額がありますが、法定減額というのは現在どのぐらいあるのか、何件あるかということですね。法定減額については基本的に国の方から補助があると思うんですが、国からの補助はそれについてどうか。法定減額市としてやっているのは何件で、幾らで、それについて国からの補助はどうかということですね。

それから、申請の減免これについては何件で、幾らあるのか、そしてその申請の減免をしている理由は何なのか、この辺についてお聞かせを願いたいと思うんです。

こういうことをお聞きするのは、国保税はいま収入未済が多くなっていく中で、大変市民の立場から厳しい状況にあるわけで、そうした中で、こうした制度がどういうふうに機能をしているのか知りたいために、数字についても具体的にお示し願いたいわけです。

次に、財産に関する調書の関係であります、財政調整基金について積み立ての目的についてということでもう少しお話が伺えるんじゃないかなろうかと思ったんですが、3月の時点とあまり変わらない御答弁で、年度間調整あるいは西口等の大規模な開発事業あるいは災害等の不意の出費に対する備え、こういうような御説明ですが、3月の議会でもお話いたしましたように財政調整基金の積み立ての残高としてはかなりのもので、たしかあのときは56年度決算の数字だったと思いますが、それでいくと県下第6位だと、標準財政規模との比率で非常に高い順位で、高い財政調整基金の積み立て率を持っているという点を御指摘いたしたわけで、年度間調整あるいは災害等の通常言われる財政調整基金の積み立ての内容、それから西口等の大規模な開発事業等に備えての残高、これはそれぞれどれぐらいどういうふうに私どもは考えていったらいいのか、その辺についてのお話がお聞かせ願いたいと思います。3月の議会ではそれを聞くと「私にまかせてくれ」といった話だったわけで、そこが聞きたいわけで、そこをお聞かせ

願いたい。

それから、土地開発基金の問題で、なるほどそれぞれ話がわかるわけですが、債券についてはざっくりばらんな話であれですが、西口の例の沼地の関係の1億4800万ですか、その関係のものじゃなかろうかと、こういうふうに思うんですが、もしそうでなければそうでないという御答弁でいいんですが、そうであるとするとは何点か御質問したいと思いますので。

まず、西口の沼地を1億4800万で2261平米買収されて——市開発公社がされましたね、この買収価額は坪単価に直しますと21万8000円ということになるわけですね、あの土地は昨日の御答弁の中でも2mの里道がある以外に道路には接しておらない、そういう意味で袋地で、しかも沼地である、こういうことでございますが、大変21万8000円というのは——東洋興産からいくともっと高く売るつもりだったようですが、それ自身高いのではないかという気を持つわけです。当時の取り引き事例については具体的なものがおありだと思いますので、その取り引き事例について御説明をお願いをいたしたいと思います。

それから、西口のこの土地については、昨日のお話ですと木島さんという方が六軒町等の共有地を約300人ぐらいの方々から大変な苦勞をなされて買収をしてきたんだというようなお話でしたが、市自身はこの土地の買収についてかつて計画をしたとか、あるいはそういうようなことで交渉をしたとか、そういう事実はありませんか。

○総務部長（川畑喜代志君） お答え申し上げます。

第1点の地方交付税関係のお話ですが、御案内のように地方交付税というのは国税三税——所得税、法人税、酒税の32%が地方に回るということで法律化されておるわけです。

地財計画では4.9%の減であるにかかわらず、館山市においては10何%かの落ち込みという御質問ですが、地財計画でいう地方交付税につきましては都道府県と市町村、いわゆる全地方公共団体をまたがるものとして——税の収入関係見てみますと、市町村におきましては固定資産税と市民税が大きなウェートを持っています。これに反しまして都道府県におきましては法人事業税というのが大きなウェートを持っております。都道府県の方が税収が少なかったという意味合いにおきまして、市町村サイド

がそれだけ割りを食った——変な表現ですけれども、市町村サイドでは景気の低迷はありますが、それなりの税収はあったのだということからしまして、市町村サイドが地方交付税の減額分をだいぶかぶったということで、単純に地財計画で減った相応分が市町村も減るであろうという予想が立たないわけでございます。そういうことで御理解をいただきたいと思います。

それから、第2点目の国保会計の問題でございますが、法定減額分と申請減額分の件数、金額でございますが、お答えいたします。

まず、国保税条例の12条で、いわゆる低所得者に対しては減額が義務づけられておるのがあります。12条の1号を見てみますと、6割減をしなければいけないという世帯でございまして、均等割につきましては1991人が該当になっております。平等割は1419世帯、合わせまして1996万4000人が減額されております。2号を見てみますと、これは4割減でございますが、均等割の減額が828人、平等割が258世帯ということで、この4割減は3940万余の減額になっております。これを足しますと2390万ほどがいわゆる法定の減額分になります。

引き続きまして、申請に基づきます減額分ですが、これは28件ありまして78万2000円ほどになっております。理由といたしましては生活困窮だということで申請がございましたので、事情等よく調査いたしまして、もっともだということで減免をいたしております。

それから、減額した分について国から補てん措置はないかということですが、これにつきましては財政調整交付金ということで法定減につきましては入っております。

それから、第3点目の財政調整基金関係でございますが、目的別の額が決められておるんじゃないかという御質問ですが、これにつきましては市長が3月あるいは今回御答弁申し上げましたように、特にこれについてはどのくらいの額だというようなことは決めてございません。と申しますのは、いろいろ要因がありますので、それに対応するだけの額を積んでいくとなりますと、大きくなっていくということも一つの原因にもなります。

それから、次の土地開発基金の問題でございますが、この債券が西口の土地購入の資金ではなかろうかという御質問ですが、御指摘のとおり西口の取得のために土地開発基金から公社に貸してございます。

それから、西口の土地の取得につきましては都市開発室長から申し上げます。

○都市開発室長（佐藤 勇君） 取り引きの交渉があったんではないかということですが、その前に取り引き事例でございますが、周辺地区4件ほどございまして、年次と場所もばらばらでございますけれども、ちなみに沼地の西200mのところでございますけれども、57年2月時点でございまして、平米7万1200円でございます。地目は宅地でございます。それから対象地北200m宅地、55年5月でございまして、平米5万1000円。それから対象地の南100m宅地でございまして、55年6月、平米10万6000円。もう1件対象地の西400m宅地でございまして、56年1月、6万600円でございます。

先ほど、御指摘のございました平米当たりの単価を坪に直しますと21万6000円ということになるかと思いますが、平米に直しまして6万6000円ほどの平米当たりの単価になるわけでございますが、これにつきましては57年3月に不動産鑑定をやっていただきまして、それから実際取り引きがありましたのは1年半ほどたっておるわけでございます。その辺加味いたしまして、坪当たり21万6000円ということで……。

過去に、市が買収した経緯はないかということでございますけれども、これにつきましては私ども知り得る範囲では聞いてございません。

○水道課長（石井敏夫君） 節水ごまにつきましては御質問でございますが、今年の渇水でもって三芳水道並びに錦山市水道におきましては、各小学校、中学校、幼稚園等に節水ごまを設置したわけでございます。

その効果といいますと、数字的には出ておるわけでございます。参考に申し上げますと。30度蛇口を開閉した場合に、通常ですと1分間に5.8ℓ出る水が、そのごまをつけることによって4.6ℓ、すなわち1.2ℓの節約になる。次に90度開閉した場合12.8ℓが6.8ℓになる。180度の場合ですと14ℓが9.0ℓ。全開しますと21.2ℓが21.8ℓ、こういふことで節水ごまの効果は、その開閉度によって違ってくる、ですから、需要者側がいかにか60もしくは90度近辺の開閉にするかということで効果が決定されます。したがって、使い方の説明等もう少しPRしなければいけないと思います。

それから、第2点の井戸水の利用でございますが、各小学校、中学校等それぞれ井戸は所有しておるものと考えておりますが、水質の問題等で水道に頼るというのが現状でございますが、特に夏の渇水時期等におきましては、飲料以外の水は井戸水等を利用してほしいというのがわれわれ水道を担当している者の考えでございます。

○1番（神田守隆君） 地方交付税については、市町村が割りを使ったというお話で、具体的な数字的な話はなかなか出にくいことかもしれませんが、また別の機会にそうしたことについての御説明を詳しくお聞かせください。

それで、次に水道の問題ですが、節水ごまというのはどれぐらいの実際の節水上の効果が出たのかという点での——運用も含めましてどれだけの効果があったのかということが知りたかったわけで、そういう点での調査はいまのところないようですから、それはそれでわかりました。いろいろ節水ごまだとか、あるいは節水型の便器であるとか節水に関する最近の機器等も研究されておるようですから、そういったことも節水型の水使用のあり方というものを考える上でぜひとも研究をしていただきたいと思いますと思うわけです。

公共施設の井戸の利用、これは特にトイレの水なんかというのは飲み水として使用するわけではないわけで、こうしたものについては積極的に公共施設なんかが——周辺との影響等もありますけれども、そういう問題がなければ積極的に考えていいんじゃないか、こんなふうに思うんですが、その辺についてお考えがあればお聞かせを願いたいと思います。

次に、国保会計の問題について、ちょっとお聞かせ願った数字で、私が聞き間違いかも知れませんが、6割減額が1991万、4割減額が3940万、合わせて2930万という数字を言われたので、私の聞き間違いかと思うのですが、数字が合わない。きちんともう一度お聞かせ願います。

財政調整交付金の中で全額見ているというふうに理解をしてよろしいのかどうか、あわせてお聞かせ願います。

それから、申請が28件ということですから、申請件数が滞納だとか、収入未済が大きい割りには意外に少ないので、しかも78万2000円ということですいぶん少ないのでびっくりしているわけで、どうせ払わない

んだからそんなことをしなくてもいいという考え方があるのかどうか、それはまたそれで問題でしょうし、せっかく申請減免という制度があるわけですから、それはそれなりにきちんと、生活が苦しいなら苦しいなりに、こうした手続等も住民の中に周知していくことが一つは大切なんじゃないか。市の申請減免に対する態度というか基準なりが大変過酷なためにこういったことをやりたがらないのか、あるいは知らないためにやらないのか、いろいろあると思うんですが、知らないためだとすれば、もう少しこうした制度の趣旨の徹底等が必要ではないかと思うんですが、いかがですか。

それから、財政調整基金の積み立て目的についてはどうもお答えいただけないようですが——しょうがないですね。

次に移って、土地開発基金の関係ですが、土地の不動産鑑定士の鑑定に基づいてというお話ですが、どうもそこらで——不動産鑑定士の鑑定ということもあるんですが、たとえば先ほどのお話ですと、西口の57年度を取り引き事例の——いまのパチンコ屋さんあたりではなかろうかと思うんですが、宅地ですね、57年度取り引きされて平米の取り引き事例がありますね、坪に直すと24万9000円ぐらいだろうと思うんですが、それは宅地でもあるし、当然りっぱな道路にも接しているわけです。

ところが一方——21万8000円というのは私計算間違いですか、21万6000円ですか坪に直しますと——ということで、そこは埋め立てしなければならぬ、埋め立てしようかと思えば、埋め立てするには道がなくて土を運び込むことさえできないというような——わずか2mの里道ですから、そういう土地で21万6000円というのは、実際の取り引きとの関係で見ますと、やはりちょっと納得ができないですね。不動産鑑定士の鑑定というのがあるようではありますが、それはその土地が西口の再開発の中で再開発されることを前提といたしまして、その上での土地の評価といいますか、現況のままの評価ではないのではなかろうか、そういう気がするんですが、この辺についてひとつお聞かせを願いたいと思います。

○総務部長（川畑喜代志君） 国保会計のことにつきまして御答弁申し上げます。

減額分のトータルですが、2390万5000なにがしでございます。6割減が1990万ほど、4割減が394万ほどで、合わせまして239

0万ちょっとでございます。その額が全額きているかというお話ですが、お手元にございます決算書の156頁をお開きいただきたいと思うんですが、3目財政調整交付金というのがございまして、備考欄の2行目に保険税軽減費交付金として2390万6000円という額がそれに当たります。

○都市開発室長（佐藤 男君） 不動産鑑定の御質問でございますが、先ほどお答え申し上げましたとおり57年3月時点で評価を行っていただきまして、その時点の坪単価にいたしまして20万ということでございます。それから実際取り引きがございましたのが58年10月でございます。この時点が21万6000円ということになっております。

鑑定の中に、そういった将来的なものは考慮されているかどうかという御指摘でございますけれども、不動産鑑定士ということで専門的な知識でいろいろやられておるわけでございますが、中身もいろいろ専門的なものが入っておりまして、なかなか理解できない点もあるわけですが、御指摘のありました将来的な考慮もこの中に取り入れられているように承知しております。

○総務部長（川畑喜代志君） 申しわけございません。答弁漏れがありましたので答弁申し上げます。

国保の申請減の件でございますが、減免につきましてももう少し周知徹底を図るべきではないかという御質問だと思うんですが、できれば私どもは国保税を納めてもらいたいわけですが、一応こういう制度がございますので、制度があるということはお知らせしたいと思います。さらに、どうぞ申請してくださいということは、ちょっと言うべきではないと思いますので。

○1番（神田守隆君） 1点、西口の問題でお聞かせを願いたいわけですが、共有地の買収これは木島なにがしさんとかいう方がやられたということですが、いつから共有地の買収に取りかかっておるか。

それと、市がこの土地の買収に関してかつて計画されたことがあるかということについての御答弁いただいてないと思いますので。

○都市開発室長（佐藤 男君） 木島なにがしさんという方の買収ということでございますけれども、これは登記簿上は東信興発株式会社——東京にある会社のようにございますが、これが農林省から払い下げを受けまし

た共有者の方から買収したということでございますが、登記簿の上で私どもは確認してございます。

それからもう1つ、過去に市が買収に携わったかということでございますが、先ほど申し上げたつもりでございますが、具体的に市が入りましてそういう買収に加わったというような事実はないように私どもは聞いております。

○議長（石井 正君） 以上で、1番議員君の質疑を終わります。

以上で、通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑はありませんか。

○27番（安西益男君） 2、3お伺いさせていただきます。

まず、55号企画費のうち19節でございますけれども、国鉄内房線複線化促進期成同盟負担金ということになっておるわけですが、この件について期成同盟の内容といいますか、どの方面に働きかけしているのか、またさらには今後の見通しというようなことについてお聞かせいただきたいと思います。

それから、55号防災対策費の8節報償費でございますが、災害等罹災者見舞金68万円、これは当初予算では58万円というふうになっておりますけれども、10万円増加して38名の方に支給されておる。こういうふうに承知しておるわけでございますが、その10万円の内容は13節の委託料から7万5000円、それから防災訓練用資器材等提供者の支払い、さらに災害用浄水機の点検操作料これから2万5000円、合わせて10万ということが書いてございますが、当初予算が少なかったんではないかというふうに思うわけですが、この点はどうか。

それから、56号21節の貸付金でございます。これは災害住宅復旧資金貸付金ということで当初予算で200万、限度額1名200万ということですが、前々年度は400万計上されておった、昨年は200万、1名後申し込みがあった場合にはどのようにするのか、その点が1点。

それから、87号環境衛生費のうちの公害対策審議会委員報酬というふうに書かれておりますが、昨日またさらに一昨日大変問題になりました海水汚染の問題これは非常に大きな問題でございまして、さらには新聞報道あるいは全国的に報道されて、もう不適の一步手前にあるという非常に大

きな問題でございます。こうした問題が審議会で検討されたかどうか、検討されてなかったとするならば、検討するのかどうか、その点もひとつお聞かせいただきたい。

それから、施策の成果に関する報告の中で、26页から27页にわたって環境衛生費の中に「環境の保全浄化に努め、清潔で住みよい館山市の町づくりを行った」とあります。さらにはこの環境衛生費の中に「河川等の水質検査及び大気測定局による大気汚染の監視測定を実施し、環境状況の把握に努めた」と、さらには「公害苦情の処理とあわせ、公害発生源の改善指導に努めた」というふうになっておりますけれども、ここにおいてもその大きな問題が全く報告されておられません。こういう点からも、徹底するためにも検討されたのかどうかという点をまずお聞かせいただきたい。こう思うわけでございます。

○市長公室長（斎藤武男君） 55页の国鉄内房線複線化促進期成同盟会の関係につきまして、本件につきましては県知事が会長になりまして全線の複線化の促進に努めているところでございます。特に複線化されておられません部分の関係につきまして、いわゆる君津から鴨川間の全線の複線化を最終目標に運動しているわけでございますが、毎年のように国、県あるいは国会議員さん等を通して、いろいろこの関係についての促進方の運動をしておるわけでございますけれども、いかんせん現在の国鉄の財政状況の中で非常にむずかしいと、特に旅客を上げてほしいと、そういうような実績の中で検討したいというようなことでございます。さらに私どもとしましては、部分複線の運動もあわせて行っているわけでございます。

○民生部長（鈴木 力君） 災害等見舞金の関係でございますが、当初予算におきまして過去の実績に応じまして予算を見積もったわけでございますが、現実的には火災の発生が多くございまして、このようなことで流用いたしましたの決算をさせていただいたわけでございます。

それから、貸付金の関係でございませうか、これにつきましては制度をつくりましてから貸し付けしたものは1件のみでございまして、したがって、前々年度は400万を計上してございましたけれども、実績に基づきまして200万ということで予算に計上いたしましたわけでございます。なお、その後の申し込みがあった場合どうするかということでございますが、

そういう事実が生じまして申し込みがあった場合におきましては、その時点で予算措置を講じさせていただくということで考えております。

館山海域におきます、いわゆる水質汚染の関係でございしますが、これにつきましては特に公害対策審議会にかけましての協議はいたしてございません。

○27番（安西益男君） 国鉄の問題、それから罹災者の問題昨年より多かったということで、補てんということはわかりました。

貸付金も昨年度は1名を支給したということでございますが、なお内容を検討願いたい、そういうように希望するわけでございます。

それから、公害対策審議会ですういったことが話題にならなかったと、今後話題にすべきだと思うんです。また、この報告にありましたように、「環境の保全浄化に努めた」というようになっておりますが、この大きな問題がここに取り上げていない、これは昨日、一昨日とあわせて5名の議員から非常に大きな関心事として要望されておる、こうしたことを検討されないということに大変大きな問題があると思うんです。

次に、滅菌装置は1週間あるいは2週間ということでございますが、1週間にわたって滅菌装置に対する費用は一体どのくらいかかったんでしょうか、それをまずお聞かせください。

○商工観光課長（伊東 衛君） 昨日、一昨日御説明いたしました滅菌装置は2週間ということではございません。海水浴場の期間は5週間ございます。その前後2週間ということですから、9週間の費用がどんどん川と汐入川で90万ということでございます。

○27番（安西益男君） それで、今回の議会で要望のあったことは何とかならないかということですね。予算がないということですか、出せないということですか、年間1000万ということですか。

御案内のように、富山では2年前あるいは3年前、さらにこの施設を拡大しておる、雑排処理施設を、また白浜におきまして今回の議会におきまして5600万をかけて——350世帯ぐらいの対象の川です、どんどん川というところですが、そこに5600万かけてすぐに施設を設置するんだという、非常に本気になって取りかかっている。

館山は、観光館山を標榜し「青い海、きれいな海、美しい海」と、看板

は非常に宣伝しておるわけでございますが、実際にはどこをとってもそういう形跡がない。まして来年を本当に考えた場合、適か不適かを考えた場合に、もう現在不適の前提にある、夏前に保健所ではこれが公表されると大変困ると言っておりました。ですから、不適寸前にきているという認識を持ってもらわないといけないと思うんです。

それで、本当に館山の海水汚染ということが報道され、市民の関心も高まっておる。しかしながら、90万そこそこでお茶を濁らせるというような感じにもとれるような——これでは断じてならないと思うんです。

そこで、富山、白浜町のように、本当に取り組もうという姿勢があるのか、どれだけかかっても市民がこれだけ大きな関心を持っているわけですから、金銭にかかわらず本気になって取り組んでいくべき性質の問題だと思うんです。その点お聞かせいただきたいと思うわけでございます。

○民生部長（鈴木 力君） 県が印旛沼あるいは手賀沼の汚染対策といたしまして、一つのテストプラントといたしまして開発いたしました家庭雑排水の共同処理施設、これにつきましてはいままで本会議におきましてもいろいろ市長からも御答弁ございましたように、1集落の排水の処理施設でございまして——白浜におきましてもわずか役場周辺の90戸の集落を対象に処理するということで手掛けたということでございまして、これを館山市に設置するとなれば、船形から館山あるいは西岬にかけましてかなりの数を設置しなければならぬわけでございまして、しかも施設の敷地につきましてもかなりの用地を要するわけで、その確保が非常にむずかしいわけでございまして——確かに設置をいたしまして一部の排水の処理をいたしますれば部分的な浄化というものは効果があるかと思いますけれども、館山湾海域全面に汚染対策としてこの施設を設置するということにつきましては、かなり疑問があるわけでございます。また将来公共下水道を設置するということでございますれば、これらの競合の問題もございます。果たして高額の投資をしてその効果があるかどうかということにつきましても、非常に疑問があるわけでございます。

なお、こういう施設につきましては、建設省等におきましてもっと効率的な、しかも対象戸数5000戸ぐらいを対象とした簡易下水道施設とい

うものを60年度に試作するということで聞いておりますが、そういうようなこともございますので、今後もそういう問題についての大きな課題としていろいろ検討してまいりたいと思っておるわけでございます。

○27番(安西益男君) 新聞等によりますと、白浜の場合は350世帯ぐらいというふうに聞いております。それはやはり白浜でやるということは、それを見ていいということでやると思うんです。また富山も増設、拡大しようということは結果がいいからだと思うんです。ですから、十分検討して、可能ならやる気があるのかどうか、その点をひとつ市長にお聞きしたいと思います。

○市長(半澤良一君) ただいま民生部長から御答弁申し上げましたように、市といたしましても十分検討はいたしましたけれども、やはり県が推奨しております富山、あるいは今度白浜でやろうという施設は館山市には適合しない、そういう結論でございます。

○議長(石井 正君) 以上で質疑を終結いたします。

決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

○議長(石井 正君) お諮りいたします。

ただいま議題となっております昭和58年度各会計決算につきましては、10人の委員をもって構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにいたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(石井 正君) 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

重ねてお諮りいたします。ただいま設置されました決算審査特別委員会委員の選任については、委員会条例第4条第1項の規定により

2番議員	田沢 勝信君	5番議員	川名 正二君
6番議員	生稻 陸君	10番議員	横溝 功君
11番議員	飯田 義男君	14番議員	伊藤幸太郎君
15番議員	渡辺 昭夫君	17番議員	近藤 好雄君
27番議員	安西 益男君	28番議員	安澤 徳順君

以上、10人を指名いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よってただいま指名いたしました10人の諸君を決算審査特別委員会委員に選任することに決しました。

ただいま選任されました決算審査特別委員会委員の方々は、後ほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので、御了承願います。

請願書の上程

○議長（石井 正君） 日程第2、請願第5号少額貯蓄非課税の現行制度存続に関する意見書の提出を求める請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（石井 正君） 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（石井 正君） 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

（24番議員流山源次郎君登壇）

○24番（流山源次郎君） 少額貯蓄非課税の現行制度存続に関する意見書の提出を求める請願書の紹介議員としての御説明を申し上げます。

高度経済成長のかけに高い貯蓄があったということに対しまして、現在高い貯蓄率の中には中小以下の方々が将来の不安——災害とか、また高齢化社会に対するための、その自分たちの身を守るという自助作用によって今日の貯蓄が出されたわけでございますが、そこに俗にいうマル優制度のささやかなるものが与えられておったということでございますが、このたび自民党の約8項目の中にマル優制度の見直しというものがうたわれてあるわけでございます。

私どもは、比較的貧しい者の貯蓄意欲を損ねないようにお願いするという趣旨のもとに賛同いたしまして、ここに現行の非課税貯蓄制度が存続されるよう強く望むものでございます。どうか満場の御賛同を賜りたくお願いいたしまして、趣旨説明にかえさせていただきます。よろしく願います。

委員会付託

○議長（石井 正君） 本請願書につきましては、総務委員会に付託をいたします。

陳情書の上程

○議長（石井 正君） 日程第3、陳情第2号福祉施設建設に関する安房郡市広域市町村圏事務組合へ意見書提出を求める陳情書を議題といたします。

陳情書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（石井 正君） 朗読は終わりました。

委員会付託

○議長（石井 正君） 本陳情書につきましては、文教民生委員会に付託をいたします。

延 会 午後零時25分

○議長（石井 正君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（石井 正君） 御異議なしと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明9月20日から25日まで各委員会での議案審査のため休会、次会は9月26日午前10時開会といたします。

その議事は、議案第54号乃至議案第63号及び認定第1号乃至認定第8号等に係る各委員会における審査の経過並びに結果の報告、討論、採決及び追加議案の審議といたします。

この際、申し上げます。各議案に対する討論通告の締め切りは9月26日午前9時まででありますので、申し添えます。

○本日の会議に付した事件

- 1 認定第 1 号乃至認定第 8 号
- 1 決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任
- 1 請願第 5 号
- 1 陳情第 2 号